

2 - 1 重点事業評価

事業名

子どもから高齢者・研究者まで、多様なニーズに対応できる資料の収集と提供

(1) 事業の概要

● 対象

子どもから高齢者・研究者まで、すべての年代の県民と本県に関心のある全国の人たち。

● 意図・目的

子どもから子育て世代、高齢者まで、幅広い年代向けの資料を収集するとともに、新潟県に関する郷土資料及び研究者のニーズに耐える専門書の充実を図ることにより、更なる利用の促進を図る。

● 具体的取組の概要

①新潟県に関する郷土資料の収集保存と提供について、前年度に続き一層の充実を図る。網羅的収集により閲覧・貸出用を含む郷土資料の受入冊数を増やし、おすすめ郷土資料コーナーや新潟ガイドコーナーの充実によって、更なる利用の促進を図る。

②県民の多様かつ高度・専門化する調査研究活動を支援するための専門書・研究書の一層の充実を図る。また、パスファインダーの充実や公開書庫のPRなど調査相談機能の充実に努め、所蔵する専門書・研究書や郷土資料の活用を図ることにより、図書館の利用促進を図る。

③各コーナー（くらしガーデン、家庭と子どもの本、こども図書室、第2のオフィス、文芸、ユース、CD）の一層の充実を図るとともに、関連する講演会や講座、各種展示などを開催することにより、図書館サービスの付加価値を高める。

(2) 指標①（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
郷土資料の受入冊数	年間4,100冊	年間4,121冊 （達成率101%）

（前年度実績 3,974冊）

* 雑誌を除く

指標②（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
郷土資料の個人貸出冊数	年間13,000冊	年間 16,001冊 （達成率123%）

（前年度実績 11,891冊）

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A	いずれも目標値を達成した。
------	---	---------------

A A 目標が十分に達成された。

A 目標が達成された。

B 目標に今一步及ばなかった。

C 目標を達成できなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	郷土資料の収集保存と提供は県立図書館の重要な任務の一つであり、指標設定は妥当と考えられる。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	本年度の達成目標のうち、受入冊数はほぼ前年並みだが、貸出冊数は15%上回る結果となり、利用の促進という成果は得られた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	関係機関への寄贈依頼を今まで以上に積極的に行うとともに、貸出可能な郷土資料を増やすことや、閲覧室入口付近の「おすすめ郷土資料コーナー」をこまめに点検し資料を揃えるなど、計画的に資料の充実と貸出増加を図った。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

郷土資料の充実が県立図書館の重要な使命であるので、引き続き、資料の収集に加え、整理にも一層力を入れて、保存と利用増加を目指していきたい。

(5) 図書館協議会意見

郷土資料の収集保存と提供に関する取り組みについて、高く評価するとともに今後の継続を期待する。網羅的な収集のために、県内の市町村立図書館等が、当該自治体の郷土資料を一括して国立国会図書館と県立図書館に送付する仕組みを提案してみてもどうか、という意見が出された。

パスファインダーは有意義な取り組みである。利便性を高めるために、ホームページでの公開が必要であると考え。公開は、県内の市町村立図書館によい刺激になるという意見も出された。

図書館内での資料の利用に関して、各コーナーや書架配置が適切であり、十分な環境を整えていることは評価する。一方で、距離的問題や様々な障害により来館できない人々に対する資料提供については、方針の検討や具体的な取り組みが必要であると考え。付随して、産業構造の変化に伴う就業構造の変化（シフト勤務となるサービス産業従事者の増加）に対応した、休館日の再検討が必要ではないかという意見も出された。

また、「子どもから高齢者・研究者まで」をサービス対象としているが、「（乳幼児を含めた）子ども」に対するサービスについての成果が明らかではない。利用者アンケート調査からも小中学生の利用の低さは歴然としており、高校生の利用も減少している。子どもだけでは来館しづらい立地の影響があると思われるが、ニーズの把握やサービスのあり方に関する検討が必要であると考え。なお、「こども図書室」があるため、（図書館内で）子どもの声をやかましいと感じたことはなかった。子ども用の図書が活用されているようで嬉しい。」という意見が出されたことを付記しておく。